

みや さきもり

宇都宮の防人



宇都宮駐屯地公式HP

駐屯地マスコットキャラ
『宇駐人』くん
<https://www.mod.go.jp/gsd/utunomiya/utsunomiyahp/index.html>

創立75周年記念行事開催

令和7年4月5日、宇都宮駐屯地（駐屯地司令 森温 2等陸佐）は駐屯地創立75周年記念行事を挙行了した。観閲部隊指揮官竹澤3佐（東部方面特科連隊第2大隊）が指揮する観閲部隊が整列する中、共催者である防衛協会副会長・隊友会長をはじめ、栃木県知事・国会議員・県市議会議員・各市町首長・関係各機関代表・自衛隊協力団体等のご来賓を迎え、約六千名にも及ぶ来場者の祝福の中、盛大に執り行われた。

各部隊の指揮官が先導した主要装備車両による観閲行進。そしてヘリコプター3機による観閲飛行。格闘指導官等による逞しい格闘演武。ヘリコプターからのリペリングをはじめ、諸職種部隊が総合戦闘力を発揮した模擬戦。その全てにおいて終始会場からは大きな歓声が沸き起こっていた。

災害派遣活動を紹介する防災コーナーや車両の体験試乗、防衛資料館内に展示した模型部の展示コーナーなど各種イベントが催され、随所で晴天の桜とともに写真撮影をしたりと、多数の来場者で盛り上がり、自衛隊に対する理解を深めていただけた一日であった。



観閲部隊の敬礼を受ける駐屯地司令



気迫みなぎる格闘演武



整列する観閲部隊



模擬戦（陣地占領に向かう歩兵部隊）



観閲行進開始



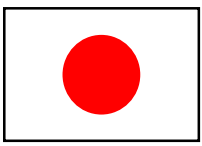
模型部作品（営内）のフォトスポット



模擬戦（リペリング）



式典司会を務めた隊員



令和6年度 印陸軍との実動訓練 ～ダルマ・ガーディアン24～



装備品の展示・説明



不審物対処要領の展示

中央即応連隊(連隊長 当時・堀口大助 1等陸佐)の爆発装置処理隊(EOD)は、令和7年2月23日(日)から3月9日(日)までの間、東富士演習場において実施された「令和6年度印陸軍との実動訓練(ダルマ・ガーディアン24)」に参加した。

本訓練は、対テロ戦に係る作戦遂行能力及び戦術技量の向上を図るとともに、両国の相互理解・信頼関係の促進を図ることを目的に行われた。

爆発装置処理隊は、機能別訓練において印陸軍工兵部隊と第1師団訓練参加部隊に対しIED(即製の爆発装置)対処要領、装備品の展示・説明及び処理器材等による爆破検証を実施、また印陸軍のIED処理器材と訓練展示の研修を行い情報共有と意見交換を実施した。

総合訓練は、市街地に武装勢力が潜入したという想定で行われ、爆発装置処理隊は、印陸軍工兵部隊及び第1師団訓練部隊と不審物発見時の連携要領や対処要領について確認・調整を実施、市街地における武装勢力の捜索・撃滅の際は、突入小隊に処理員が同行し、発見した不審物等に対処して突入小隊の迅速な市街地域の安全化に寄与した。

訓練に参加した隊員は「印陸軍と使用している機材に多少の違いはあるが、基本的な対処要領について大きな差はないことが確認できた」「印陸軍、34普連と連携し、対テロにおけるEOD処理組等の運用の一案を獲得することができた」と成果を述べた。

積雪寒冷地における訓練(関山演習場)

本訓練は、積雪寒冷地における国際任務遂行のため必要となる編成・装備及び能力について案出するとともに、その成果を連隊に共有して任務遂行能力向上に寄与することを目的に行われた。

当初、駐屯地において訓練の全般説明や積雪寒冷地における注意事項について教育を実施、衛生科隊員は、凍傷及び低体温症の対策・処置について教育を行うなど安全管理に万全を期した。関山演習場では「スキー機動」「車両走行性能の検証」「宿営地の構築」などの訓練と検証を実施して各人の能力及び技術の向上を図るとともに、積雪地寒冷地における装備品や宿営地構築要領などを検証した。

2月5日(水)に実施された本訓練の研究會において、訓練担任官である施設中隊長は「あらゆる環境下で任務を完遂するためには、冬季の知識や技術についても練度向上を図る必要がある。訓練については、まだ不十分な部分もあるので、訓練場所の選定等も含めて必要な訓練を実施して練度の維持・向上に努めていかなければならない」と述べた。



蛇腹鉄条網の構築



車両走行性能の検証

中央即応連隊(連隊長 当時・堀口大助 1等陸佐)は、令和7年1月24日(金)から1月31日(金)までの間、新潟県の関山演習場において「積雪寒冷地における訓練」を実施した。



令和6年度 警察との共同訓練

東部方面特科連隊第2大隊（大隊長 森温 2等陸佐）は2月3日～6日の間、宇都宮駐屯地及び宇都宮駐屯地周辺において、令和6年度栃木県警察との共同訓練を実施した。訓練には第2大隊をはじめ中央即応連隊・警務隊や、栃木県警察本部の警備部門、機動隊等から総勢約150名が参加し、治安の維持に関する協定に基づき県内で有事の際に備えての共同対処要領について演練した。特にサイレンとともに赤色灯を点灯させたパトカーが自衛隊車両を先導する緊急輸送及び不審者の侵入阻止の行動等状況に応ずる連携要領を確認した。



緊急輸送訓練



野外炊具1号



優勝した第5中隊炊事チーム



審査員を唸らせた渾身の料理

連隊炊事競技会「第5中隊が優勝」

東部方面特科連隊第2大隊は、2月13日北富士駐屯地（山梨県）において実施された令和6年度中隊対抗連隊炊事競技会に参加した。本競技会は各中隊の炊事能力の向上を図るとともに部隊の団結の強化に資するため実施される。野外炊具1号と野外炊具2号の部で、各中隊の保有器材ごとに分かれて競われた。また、制限時間内に配分された食材や調味料のみで主食、副菜、汁物を創意工夫を凝らして50名分を調理するというもので、味や盛り付けはもちろん、生活支援を想定した調理間の基本基礎動作ができていくかという点も採点のポイントとなった。出来上がったメニューは同じ食器に盛り付けられ、それぞれのメニューの紹介文が添えられた上で、東部方面特科連隊や業務隊等の隊員によるほか、防衛・駐屯地モニターやオピニオンリーダー、協力会長等にも部外審査員としてご協力いただき、全品を食味採点して厳正に審査された。2大隊は、野外炊具2号の部で第5中隊が優勝、第6中隊が準優勝の成果を収めた。



固唾を吞んで見守る団体戦決勝



すべては中隊のため 心を一につに

連隊武道競技会
銃剣道 優勝 第四中隊
団体の部

実施された令和6年度連隊武道競技会に参加し、戦闘員として必要な近接戦闘能力の維持・向上及び敢闘精神の涵養と中隊の団結強化を図った。

個人戦 優勝者（2大隊）

- （銃剣道）
 - 陸曹 6中 2曹 鈴木和裕
 - 陸士（1任期未満） 4中 士長 佐野晴規
- （拳法）
 - 81kg以下 本中 1曹 栗田憲実
 - 73kg以下 本中 2曹 渡邊拓海
- 女性自衛官
 - 5中 3尉 檜橋由貴那

第1施設団戦技競技会

銃剣道 2連覇達成!



緊迫の決勝戦

令和7年2月28日、古河駐屯地で実施された銃剣道団戦技競技会Bグループにおいて第307施設隊(隊長 岡部 信幸 2等陸佐)が見事2連覇を達成した。前競技会で優勝して以降、連覇を目指し日々銃剣道錬成を実施し、このような結果を納めることができた。連覇達成の要因として、基幹要員のみならず隊一丸となつての錬成、また新配置隊員の活躍が大きな要因であった。特に団体戦陸士の枠において顕著な活躍を見せた渡河・交通小隊の篠原士長はその功績から団体戦BグループMVPとして、施設団に招待されていた来賓の在日米軍工兵隊のオナシ中佐より記念品を授与された。隊銃剣道戦技監督の風間2曹は「本競技会の結果に満足することなく、団戦技競技会3連覇を目指して引き続き銃剣道錬成を実施していく。」と語った。



優勝メンバー



篠原士長(左)と在日米軍オナシ中佐(中央)

指揮官が取り組む部隊のメンタルヘルス教育



宇都宮駐屯地業務隊(隊長 猪瀬 智 2等陸佐)は令和7年2月19日(水)、宇都宮駐屯地において部外講師(産業カウンセラー 西牧氏)を招き、第3回駐屯地メンタルヘルス教育を実施した。中央即応連隊長をはじめ駐屯地各部隊長が参加し総勢約70名の隊員が、服務指導担当者としてのメンタルヘルス対応要領について教育を受けた。特に女性自衛官の特性を考慮した隊員指導について意識の向上を図ることができた。

